

新幹線プレス

2012年7月14日

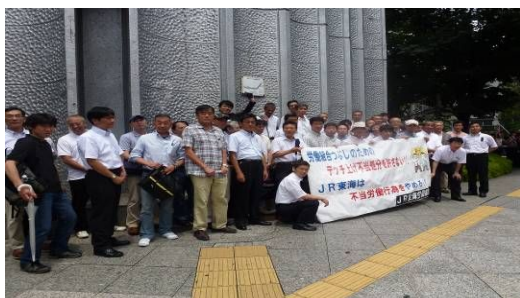
No.61

発行者 成田隆浩

編集者 教宣部

JR東海労新幹線地本

会社の「酒気帯び」デッチ上げのストーリー破綻！



《前段のビラ配布》運輸所前の鍛冶橋交差点で行い、JR東海の労働組合破壊のための不当労働行為と「酒気帯び」デッチ上げの実態を市民に訴えました。会社は、私たちのビラ配布行動に対して大量の管理者を配置して名簿まで持って参加者をチェックするのみならず、私たちの抗議に対して「裁判で訴えればいい」との暴言まで吐いて妨害をしました。

《証人尋問》11日には、会社側の証人である当時小川運転助役・齋藤総務科長と組合側が証人要請した協運転科長の証人尋問が行われました。3名の証人尋問は、主尋問ではストーリーに基づき淡々と証言していましたが、反対尋問では、会社が「酒気帯び」と認定した総合的判断（「酒臭を複数の管理者で確認した」「前夜の飲酒」「アルコール検知器の数値」「本人の様子」）なる具体的事実・場面については弱々しく肝心な場面では「覚えていない」とさらなる追及に対してはシドロモドロの証言に終始しました。しかも肝心なアルコール検知器検査後の「酒気帯び」の認定・乗務停止の通告についての欺瞞性はもとより、のちに会社が作ったストーリーはもの見事に破綻をしました。それは、13日に証人尋問に立った淵上本部委員長のJR東海労の組織拡大に対する報復の「酒気帯び」デッチ上げという明快な証言と原告である齋藤証人によってリアルな具体的事実に基づいた証言によって明らかにされました。



《報告集会》証人尋問における会社の作ったストーリーを破綻させた事実を確認して、さらに職場からの闘いを強化して勝利を確実なものにするために全組合員・OBを含めて闘うことを確認しました。

報復処分撤回裁判証人尋問

2012年7月11日と13日報復処分撤回裁判口頭弁論・証人尋問が開かれました。両日とも前段でのビラ配布・裁判傍聴・報告集会に組合員・OBを含めて100名を超える仲間が結集して大成功に終了しました。



《ビラ配布を監視する管理者》

次回結審 10月3日(水) 11時～東京地裁 527号法廷 齋藤原告の最終意見陳述予定